



・アレルギー性鼻炎

白癬菌による皮膚試験、特異的 IgE 検査および鼻誘発試験にて白癬菌による即時過敏反応が確認された通年性の鼻炎 8 例を対象に、経口抗真菌薬投与が鼻炎および白癬に有効であったと報告されています。また、白癬を持つ通年性の喘息に白癬菌エキスの鼻誘発後に気道過敏性が上昇することが報告されています。(8) (9)

・アトピー性皮膚炎

Rajka らはアトピー性皮膚炎において、白癬の有無に関らずトリコフィトン即時型皮膚反応陽性頻度が高く、トリコフィトンに対する反応は他の空中真菌と相関することから、トリコフィトン即時型皮膚反応は、他の空中真菌との交差性によるものと報告しています。(10)

Scalabrin らは、中等症以上のアトピー性皮膚炎における環境アレルゲン(チリダニ、アルテルナリア、アスペルギルス)および常在菌(カンジダ、マラセチア、トリコフィトン)の感作を検討した結果、検討したいずれのアレルゲンについても、感作率および特異的 IgE 抗体価が重症度と関連したと報告しました。(11)

本邦でも、池澤らは、カンジダ、マラセチアおよびトリコフィトンの感作率および特異的 IgE 抗体価の上昇が、成人アトピー性皮膚炎の重症度と関連することを報告し、さらに、トリコフィトン感作は、患者自身のみならず家族の白癬の病歴にも関連することから、経皮だけでなく経気道による可能性も考えられると述べています。(12)

喘息、鼻炎、皮膚炎などにおいて白癬菌は関与している可能性があります。特異的 IgE 検査、m205トリコフィトンをご活用ください。

【参考文献】

1. 比留間政太郎. 皮膚糸状菌症(白癬)の臨床面. *Jpn J Med Mycol* 2007; 48: 116-8.
2. 丸山隆児, 福山国太郎, 加藤卓朗, 杉本理恵, 谷口裕子, 渡辺京子, 西岡清. 白癬の感染予防. *Jpn J Med Mycol* 2003; 44: 265-8.
3. 日本皮膚科学会HP. 皮膚科Q&A 白癬(水虫・たむしなど)
4. Mari A, Schneider P, Wally V, Breitenbach M, Siomon-Nobbe B. Sensitization to fungi: epidemiology, comparative skin tests and IgE reactivity of fungal extracts. *Clin Exp Allergy* 2003; 33: 1429-38.
5. Mungan D, Bavhek S, Peksari Y, Celik G, Gurgey E, Misirligil Z. Trichophytosensitivity in allergic and nonallergic asthma. *Allergy* 2001; 56: 558-62.
6. Matsuoka H, Niimi A, Matsumoto H, Ueda T, Takemura M, Yamaguchi M, Jinnai M, Otsuka K, Oguma T, Takeda T, Ito I, Chin K, Amitani R, Mishima M. Specific IgE response to Trichophyton and asthma severity. *CHEST* 2009; 135: 898-903.
7. Watai K, Fukutomi Y, Hayashi H, Nakamura Y, Hamada Y, Tomita Y, Mitsui C, Kamide Y, Sekiya K, Asano K, Taniguchi M. De novo sensitization to *Aspergillus fumigatus* in adult asthma over a 10-year observation period. *Allergy* 2018; 73: 2385-8.
8. Kivity S, Schwarz Y, Fireman E. The association of perennial rhinitis with Trichophyton infection. *Clin Exp Allergy* 1992; 22: 498-500.
9. Ward GW, Karlsson G, Rose G, Platts-Mills TAE. Trichophyton asthma: sensitization of bronchi and upper airways to dermatophyte antigen. *Lancet* 1989; i: 859-62.
10. Rajka G, Barlinn C. On the significance of the trichophyton reactivity in atopic dermatitis. *Acta Derm Venereol* 1979; 59: 45-7.
11. Scalabrin DMF, Bavbek S, Perzanoski S, Wilson BB, Platts-Mills TAE, Wheatley LM. Use of specific IgE in assessing the relevance of fungal and dust mite allergens to a topic dermatitis: A comparison with asthmatic and nonasthmatic control subjects. *J Allergy Clin Immunol* 1999; 104: 1273-9.
12. 池澤善郎, 北村和子. アトピー性皮膚炎と真菌・細菌アレルギー. *アレルギーの臨床* 1995; 15: 249-53.

## 2 感染症トピックス：冬季に流行するノロウイルス

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は、一年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。ノロウイルスは手指や食品などを介して経口感染し、症状としては嘔吐、下痢および腹痛などを起こします。感染力が非常に強いノロウイルスは「早期発見」と「感染拡大防止対策」が極めて重要です。「早期発見」には迅速診断キットでの検査実施、「感染拡大防止対策」は手洗いなどの予防が非常に重要です。

ノロウイルスの検査についてご案内申し上げます。

1. ノロウイルスに関して厚生労働省の「ノロウイルスに関する Q & A」  
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinzenbu/0000209614.pdf>

2. ノロウイルスの検査の必要性  
<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/noroviruskensa2019-11.pdf>

3. ノロウイルスの予防  
<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/norovirusyobo2019-11.pdf>

\*\*\*\*\*

検査項目 : ノロウイルス迅速検査 (ノロウイルス抗原定性)  
項目コード : 5571  
検査材料 : 糞便小指頭大又は 1mL 相当量  
容器番号 : 56  
保存方法 : 冷蔵又は凍結  
検査実施料 : 150 点 \*  
検査判断料 : 144 点 (免疫学的判断料) \*  
検査法 : イムノクロマト法  
所要日数 : 1~2 日  
基準値 : (-)

\* 以下のいずれかに該当する患者について、当該ウイルス感染症が疑われる場合に算定する。

- ア 3歳未満の患者
- イ 65歳以上の患者
- ウ 悪性腫瘍の診断が確定している患者
- エ 臓器移植後の患者
- オ 抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、又は免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者

\*\*\*\*\*

## 3 KMLインフォメーション 9月~11月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用していただければ幸いです。

2019年9月24日 検査内容変更のお知らせ  
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2019-0924.pdf>

2019年9月24日 再委託先変更のお知らせ  
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2019-0924-2.pdf>

2019年9月30日 検査内容変更のお知らせ (銅・鉄・PAP・ $\gamma$ -Sm)  
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2019-0930.pdf>

2019年10月9日 「即位礼正殿の儀」に伴う業務休業のお知らせ

<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2019-1009.pdf>

■□=====



最後までお読みいただきまして有り難う御座いました。

編集／発行 <https://www.kml-net.co.jp/>  
株式会社 京浜予防医学研究所  
〒216-0001 神奈川県川崎市宮前区野川 1432-1

=====□■